

堤防の下に眠る中世遺跡

堤防の下からは、中世の遺構がたくさん見つかりました。調査区の西側には墓域、中央には多数の柱穴の跡（建物跡？）、東側には井戸跡群があり、それぞれ土地の利用方法が違っていただけがわかりました。

発掘された土壌墓の人骨はほとんどが頭を北に向け身を屈めて埋葬されており、古銭（六文銭）やかわけ、数珠などが副葬されていました。

①墓域



土壌墓群（南から）

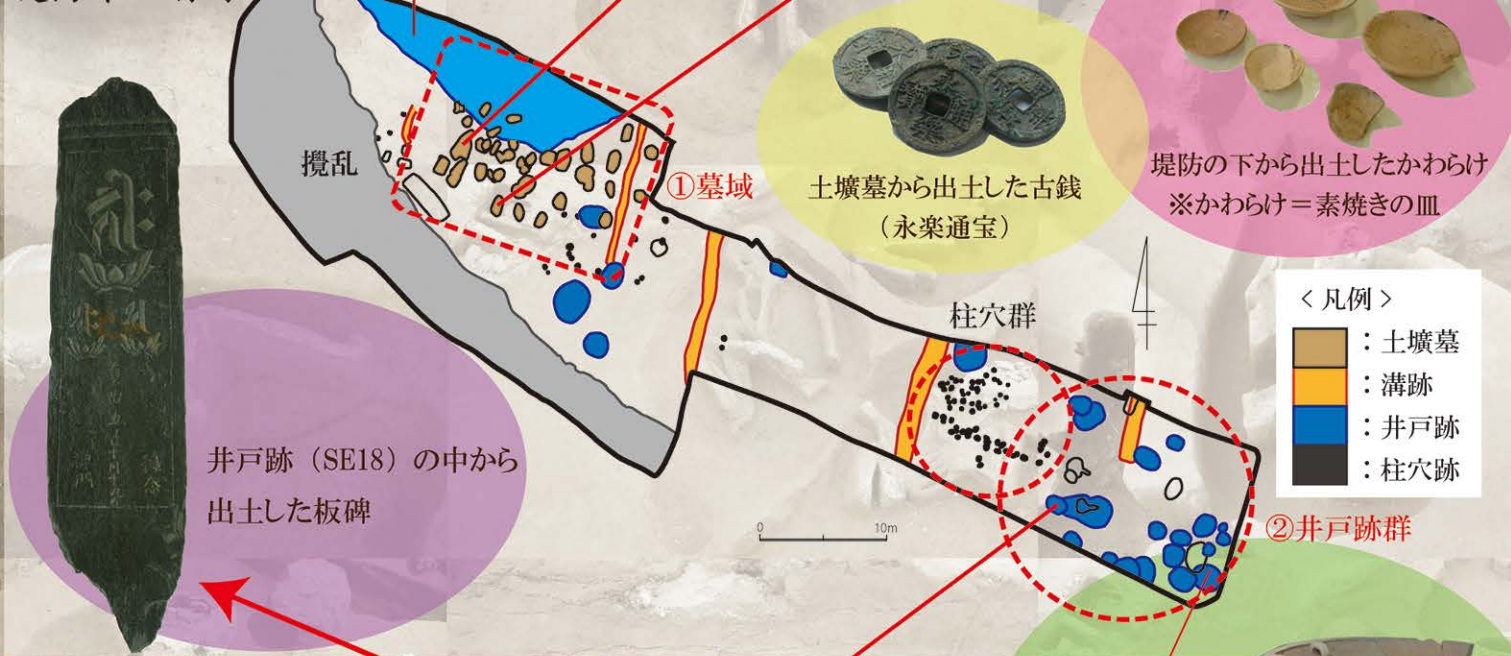


土壌墓 (SK19)



土壌墓 (SK27)

旧利根川堤防跡
堤防下の様子



②井戸跡群



井戸跡群（東から）



井戸跡 (SE18)

調査区の東側からは井戸跡が密集して見つかりました。深さは2mを超えるものがあり、中からは板碑や宝篋印塔などの石造物、かわらけや内耳鍋、播鉢などといった生活道具がたくさん出土しました。

平成27年度第6回遺跡見学会

平成27年11月7日（土）

公開!! これが堤防の中身だっ

加須市

きゅうとねがわていぼうあと

旧利根川堤防跡(第2次)

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に先立ち、加須市大越地区の発掘調査を実施しています。今回は、江戸時代から昭和初期にかけて江戸・東京を守ってきた堤防の盛土と、築堤以前の様子についてご紹介します。



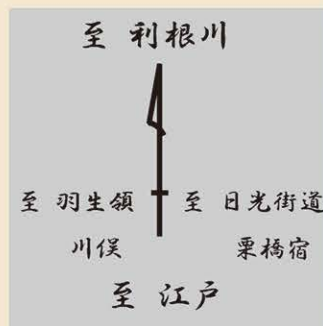
主催 : 埼玉県教育委員会
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催 : 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
加須市教育委員会

1: 堤防断面(トレンチ⑥)
2: 堤防断面(トレンチ①)
3: 調査区遠景(東から)

背景の迅速測図は国立研究開発法人農業環境技術研究所「農業的歴史環境閲覧システム」より引用

旧堤防跡之図



トレンチ①西壁 断面写真

上流側の旧堤防跡

(第1次調査地点)

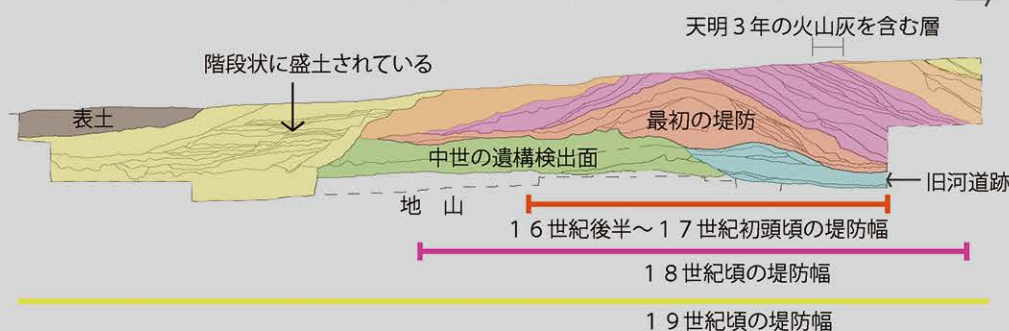
上流側の旧堤防跡の構造は芯となる中心部分に川砂を使い、初期の段階には土と砂を交互に重ねたものでした。後の段階になると砂を用いずに、土のみで拡張するようになりました。

(トレンチ①・②)

旧堤防跡の下で16世紀後半頃の墓域と、それを破壊した旧河道跡が確認されました。この堤防跡は16世紀後半以降に築堤され、20世紀前半頃まで拡張を繰り返しながら機能していたと考えられます。

トレンチ②西壁 断面図

利根川 →



第1次調査地点

トレンチ③

トレンチ②

トレンチ①

トレンチ④

トレンチ⑤

トレンチ⑧

トレンチ⑦

第2次調査地点

トレンチ⑥

下流側の旧堤防跡

(第2次調査地点)

下流側の旧堤防跡の構造は上流側とは異なり、土を積み重ねて築いていました。同じ堤防でも場所によって築堤方法が違っていたことがわかりました。

(トレンチ⑥・⑦)

江戸時代の堤防幅

時代ごとの堤防の高さ

16世紀末～17世紀初頭頃	約 2.2m(推定)
18世紀(江戸時代)	約 3.7m(推定)
19世紀(明治時代)	約 5.6m(推定)
21世紀(現在の堤防)	約 10.0m



トレンチ⑦東壁 断面写真

トレンチ⑥東壁 断面図

利根川 ←

